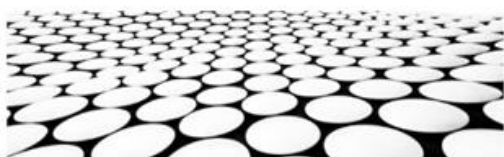


- 大妻 コタカ 先生の言葉から - 「身につけるもの」 - 昭和32年復刊「ふるさと」から抜粋

今迄の多くの女性に欠けていた自分に対する信頼感、自己の発表意欲といったものを、これからの人たちは身につけねばなりません。若い時代には、大いに外に向かって自分を進ませる必要があると思います。多くの先輩の進んだ道を知ることによって、知らず知らず、内的に充実した成人にと、伸びてゆきます。平穩無事に毎日を送ることは勿論必要でしょうけれど、なすべきことをすてすませてからでも充分です。

***From the Principal* - 「知る」ことから始まる (令和2年度2学期始業式式辞より) - 校長 野崎 裕二**

「知る」ことから始める



皆さんこんにちは。学校は全員登校で、通常の、時間割通りの学習活動を開始します。全員が揃うのは、久しぶりですね。でも、お互いのことを考えて、3密を避けることと、決して大声は出さず、静かにお話してくださいね。

令和2年第2学期を迎えるにあたり、皆さんと一緒に考えてみたいことが2つあります。

1つ目の話は、ウィルス感染に関わる話です。コロナ感染の状況下で気持ちがすっきりとしない人も多いかと思いますが、その気持ちをできる限り前向きにしながら、感染症対策に対しての基本的行動について一緒に考えてみましょう。実感は伴わないかもしれませんが、通常の生活において、こ

れまでもウィルス感染リスクはゼロにならないということは分かりますね。地球上には、目に見える生物だけでなく、目に見えない細菌やウィルスがたくさん存在していて、動物や植物と共に生きています。これを「Living Together」 - 「共生」と言います。生命は共同、連携して生活しています。ただ、人間にとって好ましくない細菌やウィルスも存在していて、これらに対しては、これまで治療薬が開発されて人間の健康を守ってきました。

ただし、今回の新型コロナウィルスに関しては、まだ治療薬が完成していない分、十分な行動上の注意が必要です。互いに注意を怠らないことが習慣になり、コロナが収束したとしても「新しい日常」としてその行動を定着させていくことが通常の生活を行う上では重要なことです。感染症対策においては、一人一人の感染予防を意識した行動が、自分の命を、家族を、大切な人を、さらに社会を守ることに繋がります。また、感染症拡大防止のため、医療や社会生活(地域、商店、会社、交通機関、学校など)を維持する業務に携わって、最前線で尽力されている方々により、私たちの生活は成り立っていることも改めて認識しましょう。周りの人のために考え、行動することが、結局は自分を守ることに繋がりますし、自分がしっかりと行動することが周りの人を守ることに繋がっていきます。

2つ目の話をする前に、皆さんに質問です。次のうち、あなたの考えに最も近い選択肢を選んでください。

- A 世界はどんどん良くなっている。
- B 世界はどんどん悪くなっている。
- C 世界は良くも悪くもなっていない。

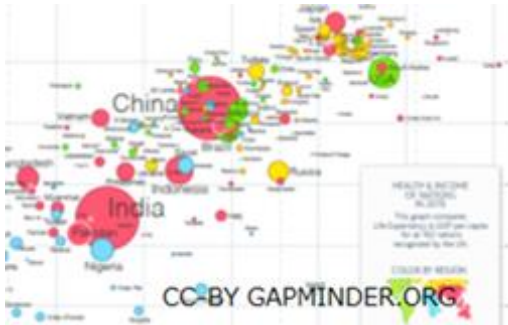
いかがですか？ 心の中で答えてみてください。

2つ目の話は、日本をはじめ、世界でベストセラーとなった「ファクトフルネス」という本からの話です。この本は2017年に亡くなったスウェーデン生まれのハンス・ロスリングさんの言葉をまとめたもので、彼は大学で医学とともに統計学を学んだユニークな経歴の医師です。彼の本によると、先ほどの質問に対して、トルコ、ベルギー、メキシコ、韓国の人は8割以上が「世界はどんどん悪くなっている」と答え、ハンガリー、日本、デンマーク、ロシアの人は「世界はどんどん悪くなっている」と同じく答えた人は6割を超えない程度でしたが、世界の多くの人は「どんどん悪くなっている」と思っているようです。実際のところ、何を根拠にそう思っているのかは別として、

人間にはそもそも思い出が美化され、「あのころは良かった」という「ネガティブな本能」があると、彼は言っています。また、良いニュースよりも悪いニュースの方が広まりやすいが、悪いニュースが増えても悪い出来事が増えたとは限りません。多くの人は、「自分が思っている世界は、事実とそうかけ離れたものではない」と信じこんでいるだろうとも言っています。

ファクトフルネスとは、「データを基に世界を正しく見る習慣」を意味します。この習慣を日常に取り入れていくことで、思い込みから脱して事実に基づく世界の見方ができるようになり、判断力が上がり、何を恐れ、何に希望を持てば

まだまだ続く、コロナ感染 ⇒ 正しい知識で、正しい対策



いいのを見極められるようになる、とのことです。図書室にもこの本があります。本の冒頭に13問の3択が用意されています。ぜひチャレンジしてみてください。

さて、最後に本校では、ここ数年SDGsをベースにした文化祭Global Arts Festivalを実施していますが、今年度はWEBを通じて発表することになりました。テーマは「アオハル～いま、私たちにできること～」です。若いからこそ考えられること、行動できることがある、というテーマを掲げています。どんな状況下であっても、より前向きに考え、「一歩前に踏み出してみること」が、皆さんの「アオハル」にとって重要なことだと改めて感じています。

早いもので年度の折り返しに近づいてきましたが、我々教職員は、この難局を生徒の皆さんや保護者の皆様とともに乗り越えることにより、大妻中野がさらに前進すると信じております。

Every day is a new day.

- 特別寄稿 「後輩の皆さんへ - ピンチをチャンスに！人生の選択に必要なこと」 - 西山 道子



今回の学校通信に本校の卒業生から特別寄稿をいただきました。本校を卒業後、大学に進学、ヨーロッパへ留学、そして、ドイツで金融機関に就職され、帰国後はその経験を活かし、教育、留学の仕事をされ、ついにその分野で自らの会社を設立。現在は、株式会社Student First 代表取締役として活躍されている西山道子さんです。社長として会社を営み、また、留学カウンセラーとして、本校の留学生を支えている方です。本校の生徒で、西山さんにお世話になった人も少なくありません。社長として、カウンセラーとして、そして、皆さんの先輩である卒業生として、その思いを皆さんに伝えたいとメッセージをいただきました。どうぞ！

「後輩の皆さんへ ～ピンチをチャンスに！！人生の選択に必要なこと～」 by 西山 道子

「あなたは、どんな荒波に飲まれても決して沈まない伝説の舟、そうパリの市旗のようだ」

昔、パリに住む友人に言われた言葉でした。

私はこの言葉を忘れることが出来ません。

今も、私の原動力となっている言葉です。

今思うと、私の人生は上手くいっているようにみえて、実は苦労の連続でした。

高校生の頃からの自分を振り返ってみます。



まずは、私の大学進学のことから始めます。私は、大学進学の際に、希望の大学・学部には行けませんでした。悩んでいた時に、担任の先生から「指定校推薦枠」について紹介してもらい、その中で確実に行ける大学に決めました。学部はスペイン文学部スペイン語学科でした。高校生の頃からフラメンコを習っていた私は、スペイン語に興味があったので、この道を選択しました。家族には、「スペイン語を勉強して、将来何になるの？」「英語の成績も良くないのに、スペイン語を4年間も勉強できるの？」と反対されました。しかし、希望の学部に進めない今、選ぶとしたらこれしかありませんでした。その時、私は「将来どうつながるかはわからないけど、自分で決断したからには、頑張ろう！！」と思いました。

大学進学後、3年次にスペインに留学をし、スペイン語とフラメンコを習得しました。これがきっかけとなり、大学卒業後、ヨーロッパでの就職を目指すことにしました。その中でも、仕事があり、ビザも取得しやすかったドイツでの就職を目指しました。大学卒業後すぐにドイツに飛び立ち、まずは語学学校に通いドイツ語をゼロから勉強し、語学力を武器にして、ドイツで就職活動をしました。

ドイツでの就職活動は、安易なものではありませんでした。順序としては、まず、複数の人材派遣会社に登録し、面接のオファーを待ちます。オファーがくると、企業はまず私の語学力やコミュニケーション能力を視るため、英語とドイツ語の電話インタビューをしました。そこでうまく答えられないと次に進めません。電話インタビューが通ると、会社に呼ばれ、面接となります。面接は少なくとも2次審査までありました。まずは、部門の面接があり、進むと、社長などトップの人たちとの面接がありました。何社も受けましたが、海外での就職だったため、幸い語学力が役に立ち、無事、銀行に就職することが出来ました。自分勝手にやりたいことをやってきた人生でしたが、この時初めて親孝行ができた、と思いました。

ドイツでの銀行勤務も5年を過ぎたころ、また大事な決断をする時がやってきました。年齢的なこともあり、将来のことで悩みました。長年海外にいた私は、やっぱり最後は日本に住みたい、と思うようになりました。また、帰国後は「これから海外に出たい日本人の支援がしたい。」と思うようになりました。

2018年に自身で設立した会社「Student First」は、主にドイツの大学進学を希望する学生の出願サポートを行っています。こうなるに至るまで、苦労と悩みの連続でした。上手くいかないことばかりでした。ただ言えるのは、何があっても挫折せず、立ち上がり、常に明日を見ていました。こんな姿をみて、パリの友人は、冒頭のをかけてくれたのだと思います。

これまでピンチは沢山ありましたが、同時にそれがチャンスになっていたのだな、と今になって思うのです。みなさんも、きっとこ

れから進路のこと、人間関係や恋愛のこと、就職のことなど、沢山悩むと思います。大事な決断をしないといけないときが必ずや訪れますが、その時々で自分が納得いく決断をしていけば、後悔はしないはずです。

人生は一度きり、二つの進路は同時には歩めないのです。この先どんな道があろうとも、自分がその時に決めた道を信じましょう。自分の決断に自信をもち、ポジティブに進んでください。人生は、無駄なことなどありません。選んだ道で苦勞をしたとしても、それは自分の人生を肥やすための材料だと思って、最大限に努力をしてください。そうすれば、きっと深みのある、他人の痛みを理解できる、強く優しい女性に成長するはずです。

卒業生として、皆さんの人生を応援しています！！



また、私は現在、大妻中野の高校留学のサポートを務めさせて頂いています。留学を希望したり、海外の大学へ関心がある後輩の皆さんにアドバイスをしてきた中で、私を感じていること、思っていることを、ここに記したいと思います。

留学から帰国した若い皆さんは、驚くほどに成長します。留学する方たちは、みんな性格も英語力も目標も違います。積極的な子だけではありません。シャイで、人とコミュニケーションをとるのに抵抗がある子は、あえて海外に出て自分の苦手部分を克服するという目標を持つ子もいます。それぞれに色々な目標がありますが、必ず、見違えるように成長して帰ってきています。私は、その姿をみることに日々やりがいを感じています。

留学の意義は、語学力の向上だけではありません。語学力に加え、環境適応力、問題解決能力、コミュニケーション力、そして人脈・・・などな

ど色々な能力が身に付きます。

自分自身の体験でも、実際海外の企業で活躍している方、特に英語がネイティブレベルの方に経歴を聞くと、高校から留学をした方や帰国子女の方が多かったです。私は大学生になってから留学をしましたが、高校の頃から、まだ頭が柔軟なうちに語学に触れることで、こんなにも違うのだと実感しました。まず、自分とは発音が雲泥の差でした…。このような実体験もあり、高校留学の意義を強く感じております。

もう一つ、高校留学の意義があります。日々、日本人の学生さんと接していると思うのが、「将来やりたいことが見つからない人が多い」ことです。日本では、まだ何を勉強したいか、将来何がしたいか、がわからないまま、とりあえず大学進学を目指す方が多いですが、海外ではそれはあり得ません。海外では、「将来何々になりたいから、大学で何々を勉強する」という発想になります。

また、就職する際でも、これまで勉強したことと関連した部署に応募することが一般的です。そういった根拠がないとなかなか外資系の会社には採用されません。海外の高校では、インターンシップやボランティア制度が普及していますし、選科授業の専門性が高いので、将来のビジョンをしっかりと持っている学生さんが多く見受けられます。

こうした私の経験から、日本人が高校留学をすることで、将来の目標がもう少し明確になり、進路選択にも役立つのではないかと、思います。海外とくくりましたが、国によっても教育制度が異なりますので、皆さんの中でも、もし留学に興味がある方がいらっしゃれば、ぜひ、ご相談いただければ嬉しいです。

今、コロナ・パンデミックで海外渡航が思うようにならない状態が続いています。しかし、決して、海外に行くことをあきらめる必要はありません。しっかり情報を集め、自分を磨き、世界に向かって羽ばたける準備をしてほしいと思います。

- Beyond School - 新しい取り組み “Global Network for Students” に参加して -

もっと出会いを！もっと刺激を！もっとチャレンジを！



大妻中学・高等学校の関孝平先生が中心になって立ち上がった学校を超えた新しい取り組み、Global Network for Studentsのプログラムに、本校の生徒16名が、夏休み、オンラインで参加しました。

「もっと日本の中高生を広い世界につなげたい」、「もっと刺激を受けて、もっとチャレンジしてほしい」という思いのもと、学校横断グローバルプロジェクトとして企画されたのが「Global Network for Students」。今回は、幅広く海外の大学に進学した学生(出身校も様々で、学生同士の独自のネットワークでつながっています)が、アドバイザーと

して、中高生と交流する、Meet Globally and Talk Globally というプログラムです。アメリカ、カナダ、イギリスの名門・トップ大学に在籍する日本人学生や卒業生が集まりました。参加する中高生も、様々な学校から集まりました。

本校から参加した生徒も、海外の大学に進学する上で何をどのようにすればよいのか、また、海外への進学だけでなく、国内の大学への進学希望の生徒も、大学を選ぶときは、どのような視点を持てばよいのかなど、多くの新しい発見があったようです。

第1回 トークセッション

ONLINE

Meet Globally, Talk Globally

海外大学に進学した学生・卒業生と
つながり、話をしよう!!

日時： 2020年 8月9日(日) 10時～

これからは、国内の大学進学を選ぶ時でも、比較をする対象が国内の大学だけには限らない。世界中の大学と比較をすることで、自分の大学入学と今後のキャリア計画が大きく変わってくることを学びました。本校から参加した生徒のフィードバックを以下に紹介します。

T.K.さん

このセミナーで、私自身は聞きたかったことが聞け、大学受験に対する悩みが解決されたので、大変役に立ちました。ありがとうございます。今後に向けてですが、グループセッションをみて気になったのは、より海外大学の学生

さんや参加した中高生がお互いに活発に交流してほしいことがあったかと思えます。対面でないことで難しいとは思いますが、簡単なアイス・ブレイクなどを挟むことを提案します。また、私が参加したかったグループ9のミーティングには参加することができなかったので、事前の希望調査など大変な作業になってしまいましたが、改善すれば、ますます充実したものになると思いました。

M.T.さん

今回お話し頂いた先輩方は高校時に「海外大学へ進学する!」という明確な目標を持ち、それを実現するために早くから入念な準備や努力を重ねていたということが分かりました。また、多くの先輩方が模擬国連に参加しており、そこで培った知識が今も様々な場面において役立っていることを聞いてとても刺激を受けました。私自身も模擬国連の活動をより積極的に参加して行きたいと思いました。

R.Y.さん

本日のイベントに参加することができ、とても有意義な時間を過ごせたと思います。実際の先輩の受験経験を聞くことができ、海外大学を目指すにあたり、高校生の間にはやっておくべきことを知ることができました。勉強面だけでなく、海外大学に行く積極性や主体性を身につけることができ、何よりもopen-mindedになれるチャンスが与えられるような印象を持ちました。また、日本の高校生の中にもたくさん海外大学に行きたい生徒がいることを知り、私にとって良い刺激になりました!

K.T.さん

本日のMeet Globally and Talk Globallyに参加して、自分が興味を持っている海外大学を卒業された方のお話を生で聞くことができ、とても有意義な時間を過ごすことが出来ました。私がイメージしていた通り、その大学では、今自分が興味を持っていることを学べるということを直接お聞きすることが出来ました。具体的な質問も直接することが出来たので、後は自分のスコアをどんどん伸ばしていこうという明確な目標が出来ました。

School Schedule - 2020年9/10月の予定 - 今後、変わることもあります。各学年で確認ください!

9月			9/10月		
6	日	第2回 TEAP(外部)	27	日	コスモス祭文化の部online
7	月	MMT(E)	28	月	
8	火		29	火	
9	水	健康診断	30	水	
10	木		10/1	木	☆都民の日
11	金	高3実力テスト	2	金	
12	土	高3実力テスト	3	土	保護者セミナーonline
13	日		4	日	
14	月	MMT(J) 教育実習開始	5	月	MMT(M)
15	火		6	火	
16	水	一斉部会	7	水	
17	木		8	木	
18	金		9	金	
19	土	高3 保護者対象進路ガイダンスonline	10	土	第4回学校説明会/帰国生説明会 対面
20	日		11	日	
21	月	☆敬老の日	12	月	MMT(E)
22	火	☆秋分の日	13	火	
23	水	職員会議	14	水	高3入試検討会(教員対象)
24	木		15	木	
25	金		16	金	
26	土	コスモス祭文化の部online 第3回学校説明会/帰国生説明会online	17	土	高3実力テスト 中学 総合学力調査